

4.5 注目すべき種の確認状況

【内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の確認状況】

(鳥類調査)

- ・ **カワウを全国の河川で確認**

アユ、アマゴ、ニジマス等に食害し、内水面漁業に被害を与えているカワウの確認状況を整理しました。

カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川すべてで確認されました。

(資料掲載: 4-32~33、4-37~38 ページ)

カワウは、内湾部や内陸の淡水、河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。一年を通して群れで生活し、水かきのついた足を使い、尾を舵にして巧みに潜水し、魚類や甲殻類を捕らえます。一時は個体数の減少が心配されたこともありますが、近年増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等に食害し、内水面漁業に被害を与えている例も知られています。

カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川すべてで確認されました。確認範囲をみると、ほとんどの河川で河口から上流まで広範囲で確認されていました。

カワウの年間確認個体数は、中国地方の太田川や四国地方の吉野川、九州地方の松浦川で特に多く、1000 個体を超える場合もありました。

1～4 巡目調査全体での確認状況を比較すると、確認河川数の比率は 1 巡目調査から 4 巡目調査にかけて漸増する傾向にありました。また、北海道地方の網走川、後志利別川、沙流川、東北地方の子吉川では、河川水辺の国勢調査では 4 巡目調査ではじめて確認され、北方に向けて分布域を拡大している傾向がうかがえました。

1～4 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 (81 河川)	2 巡目調査 (118 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (48 河川)
カワウ	59 河川 〔72.8%〕	98 河川 〔83.1%〕	109 河川 〔89.3%〕	47 河川 〔97.9%〕

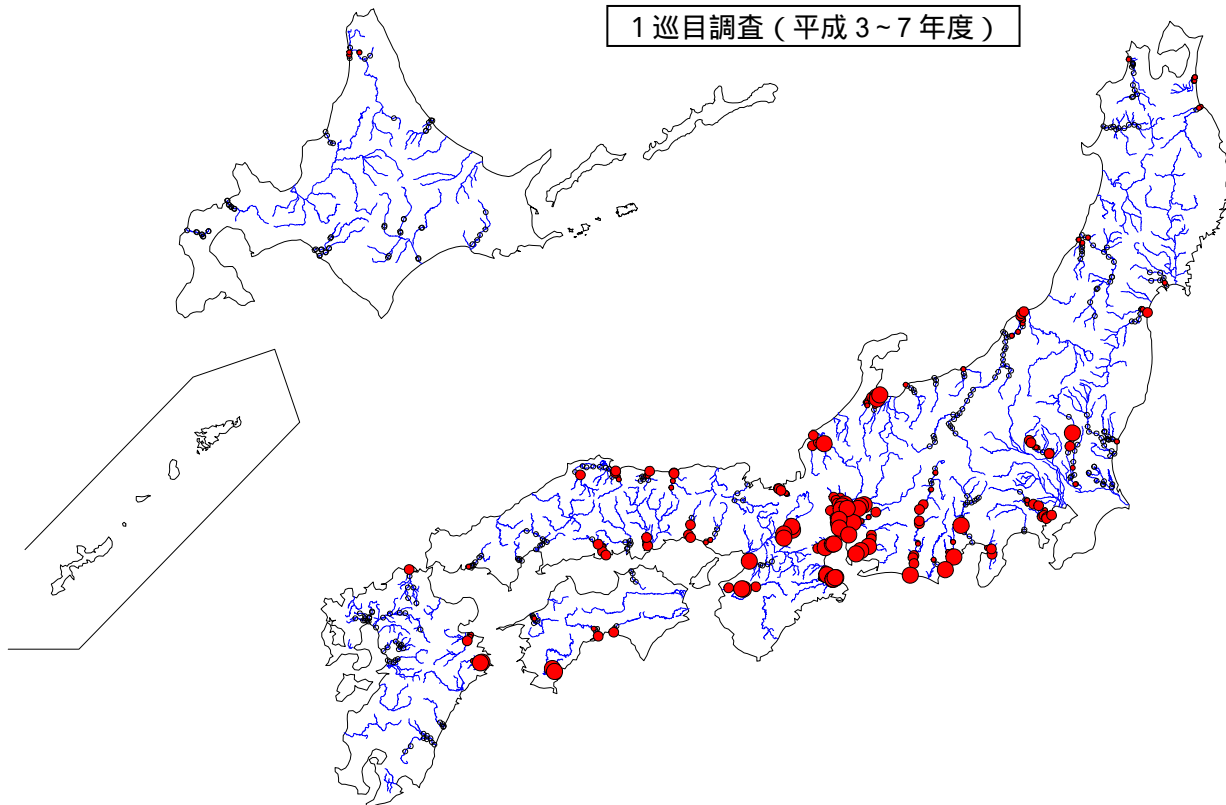
注 1; 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

注 2; 1～3 巡目調査のデータは対象全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象とした。

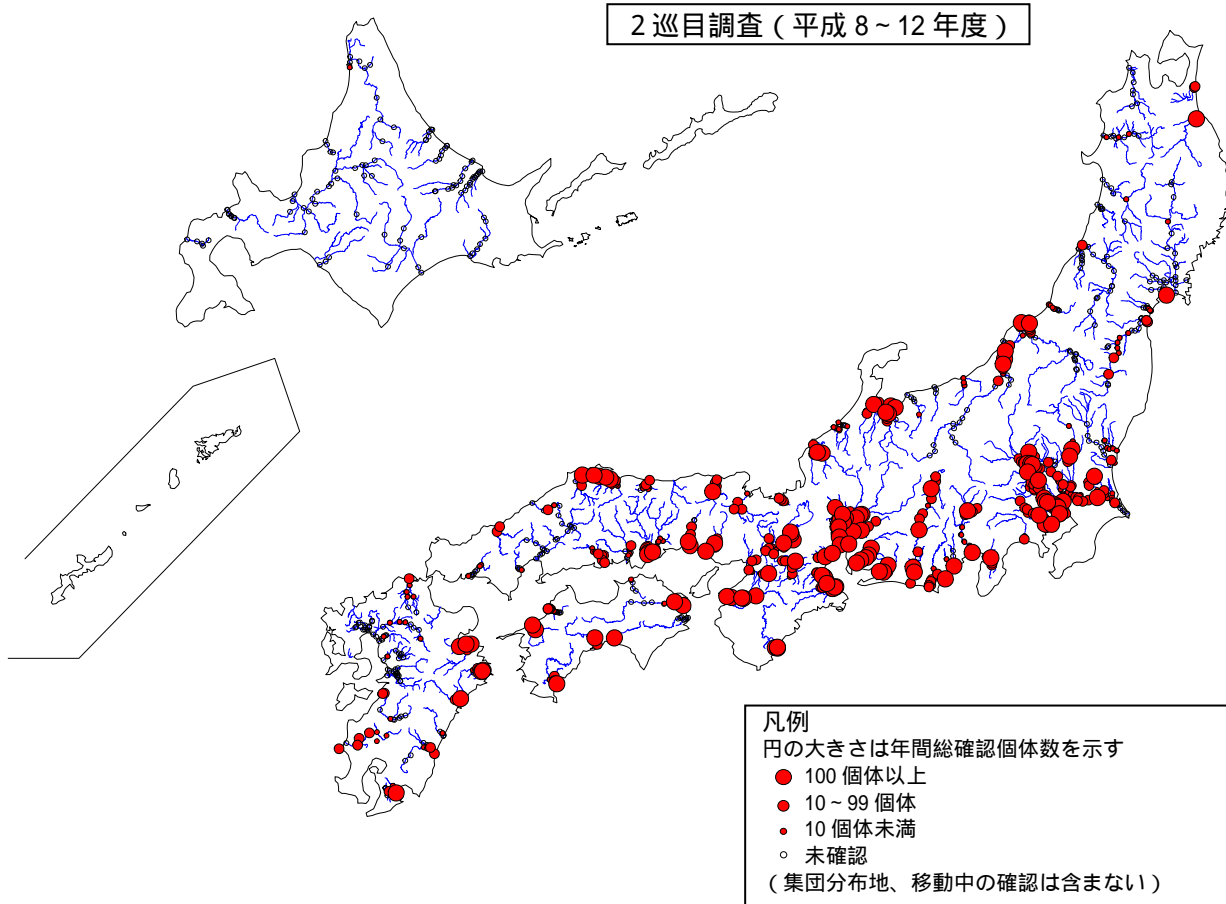
注 3; () 内は分析対象河川数を示す。

注 4; [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

1 巡目調査 (平成 3~7 年度)

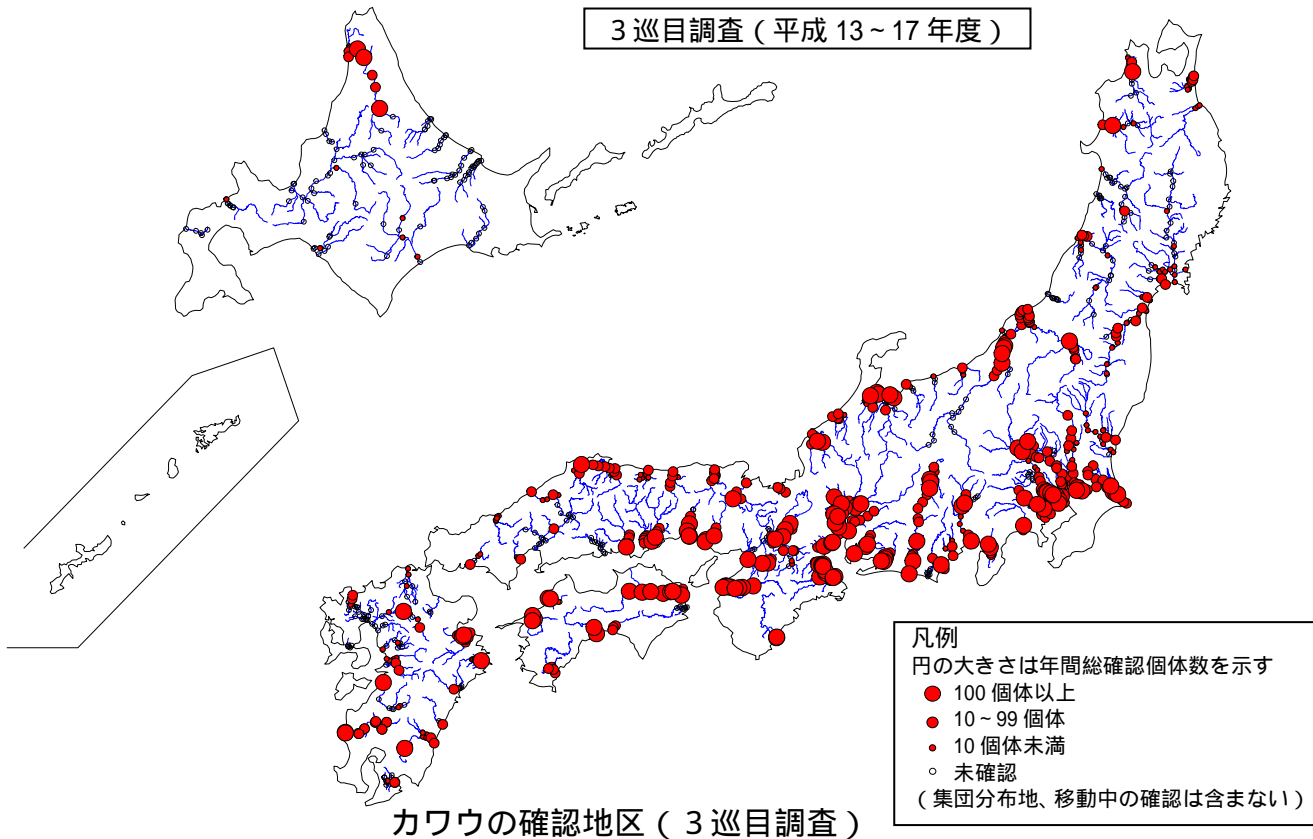


2 巡目調査 (平成 8~12 年度)



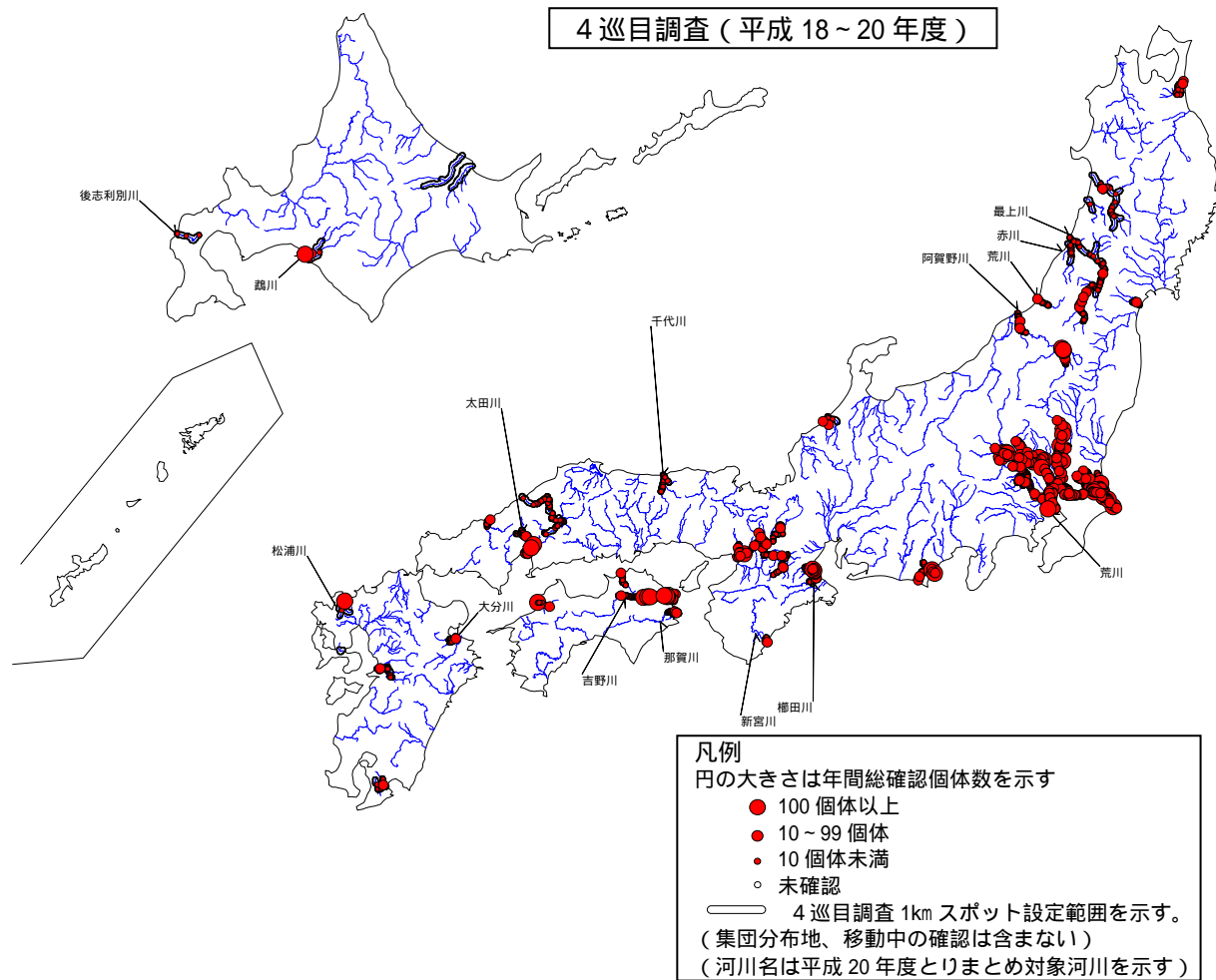
カワウの確認地区 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査 (平成 13~17 年度)



カワウの確認地区 (3 巡目調査)

4 巡目調査 (平成 18~20 年度)



カワウの確認スポット (4 巡目調査)

・ **猛禽類のミサゴはとりまとめ対象一級河川 15 河川すべてで確認**

水辺の食物連鎖の上位種として、魚を主な餌とし水辺に関係の深いミサゴの確認状況を整理しました。

ミサゴは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川すべてで確認され、おおむね河川の上流から下流までくまなく分布していることが分かりました。また、全国の水系において、内陸側へ分布が拡大している傾向がみられました。

(資料掲載：4-35～36、4-37～38 ページ)

ミサゴは、魚を主な餌とする猛禽類で、河川や湖、海岸などに生息しています。環境省のレッドリスト(2006)では準絶滅危惧種に指定されています。ミサゴは、今回とりまとめを行った一級河川 15 河川すべてで確認され、おおむね河川の上流から下流までくまなく分布していることが分かりました。ミサゴが上流まで確認された河川は、採餌が行えるような広い水面やあるいは豊かな魚類資源を保った場所として注目できます。

1～3 巡目調査全体での確認状況を河川・ダム湖を合わせて比較すると、確認河川・ダム数が増加する傾向がみられました。また、4 巡目調査は調査途中で全国的な傾向は不明ですが、調査を実施した利根川水系をみると、1 巡目は下流部の霞ヶ浦の 1 調査箇所での確認でしたが、その後 2 巡目、3 巡目では上流域でも確認されるようになり、スポットセンサス法で実施した 4 巡目では河川全域で確認されました。これは、ミサゴがダム湖周辺を含む内陸部にも営巣するようになったこと、またその営巣場所から採餌のために水辺へ飛ぶルートとして河川を利用していること等が理由と考えられます。また、ミサゴが内陸部に営巣するようになった理由は明らかとなっていませんが、ダム湖がミサゴの良好な餌場となっている可能性も考えられます。

1～4 巡目調査の確認河川・ダム数の比較

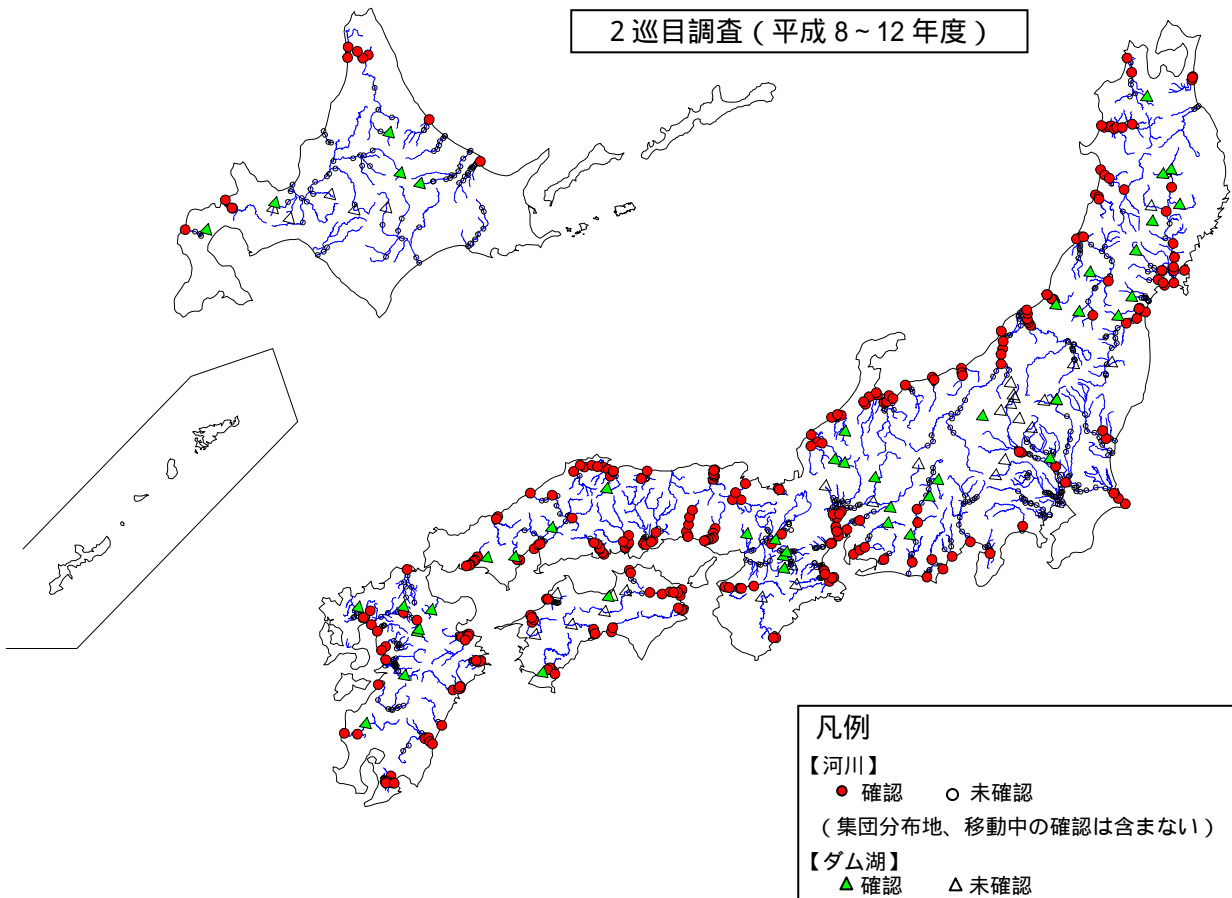
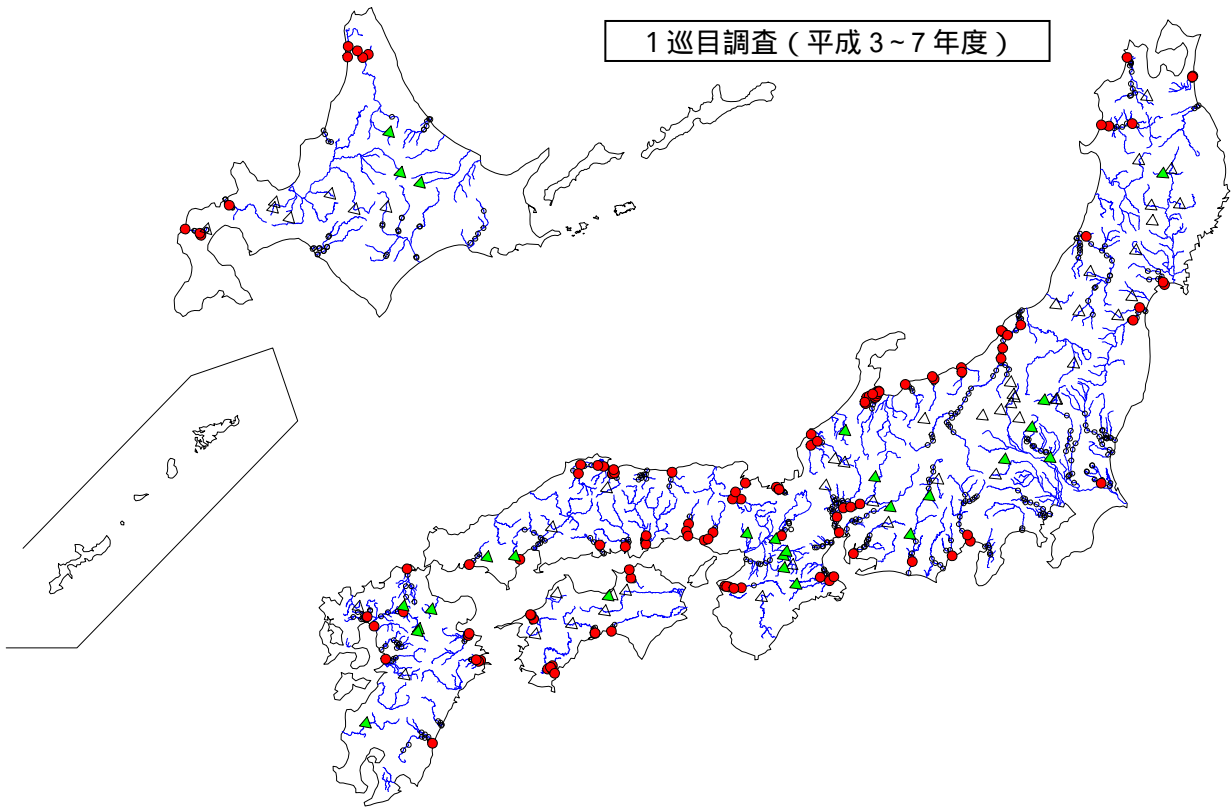
種類	1 巡目調査 (81 河川) (81 ダム)	2 巡目調査 (118 河川) (83 ダム)	3 巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	4 巡目調査 (48 河川) (50 ダム)
ミサゴ	54 河川 〔66.7%〕	94 河川 〔79.7%〕	113 河川 〔92.6%〕	44 河川 〔91.7%〕
	31 ダム 〔38.3%〕	52 ダム 〔62.7%〕	66 ダム 〔68.8%〕	35 ダム 〔70.0%〕

注1：()内は分析対象河川数、ダム数を示す。

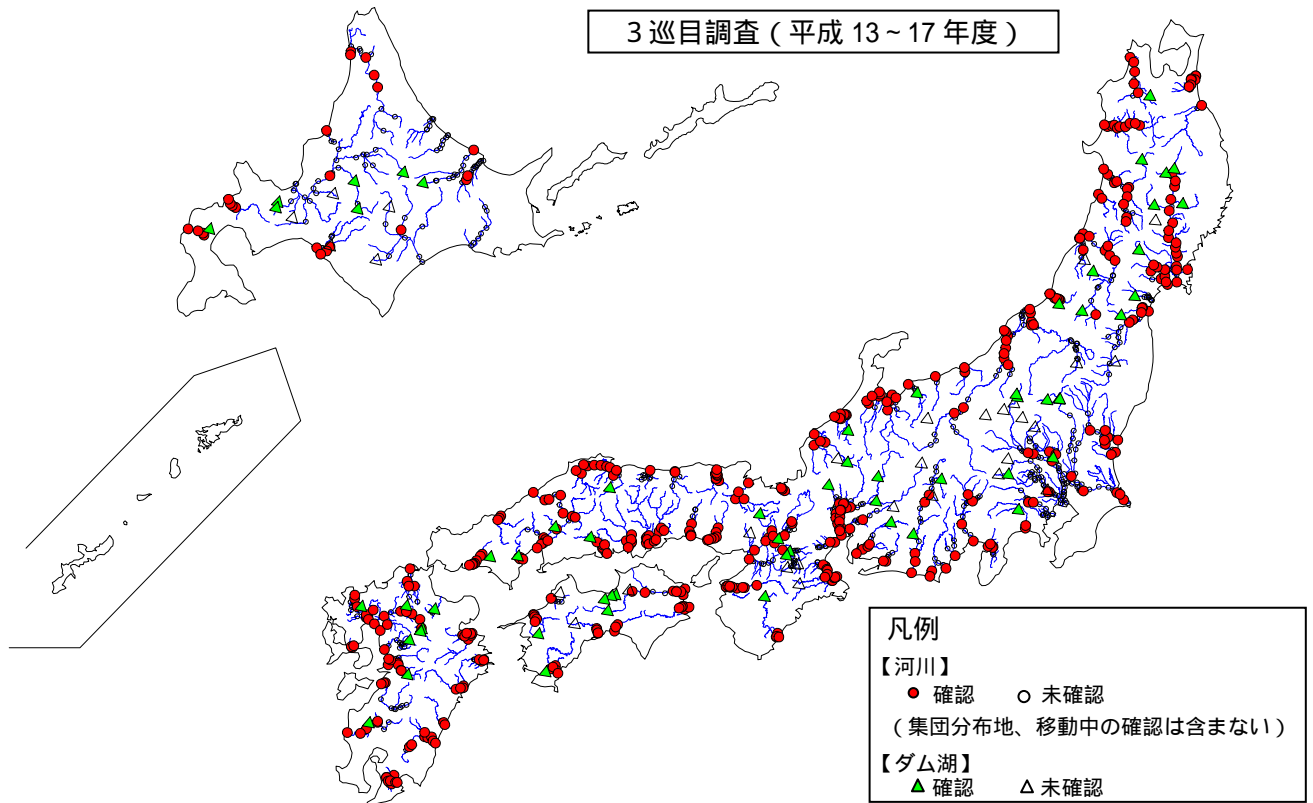
注2：〔 〕内は確認河川数、ダム数の分析対象河川数、ダム数に対する%を示す。

注3) 4 巡目調査は調査途中であるため、平成 18～20 年度 3 年分の調査結果を示す。なお、3 巡目までは 5 年周期で調査を実施してきたが、4 巡目の調査は 10 年周期で調査を行っている。

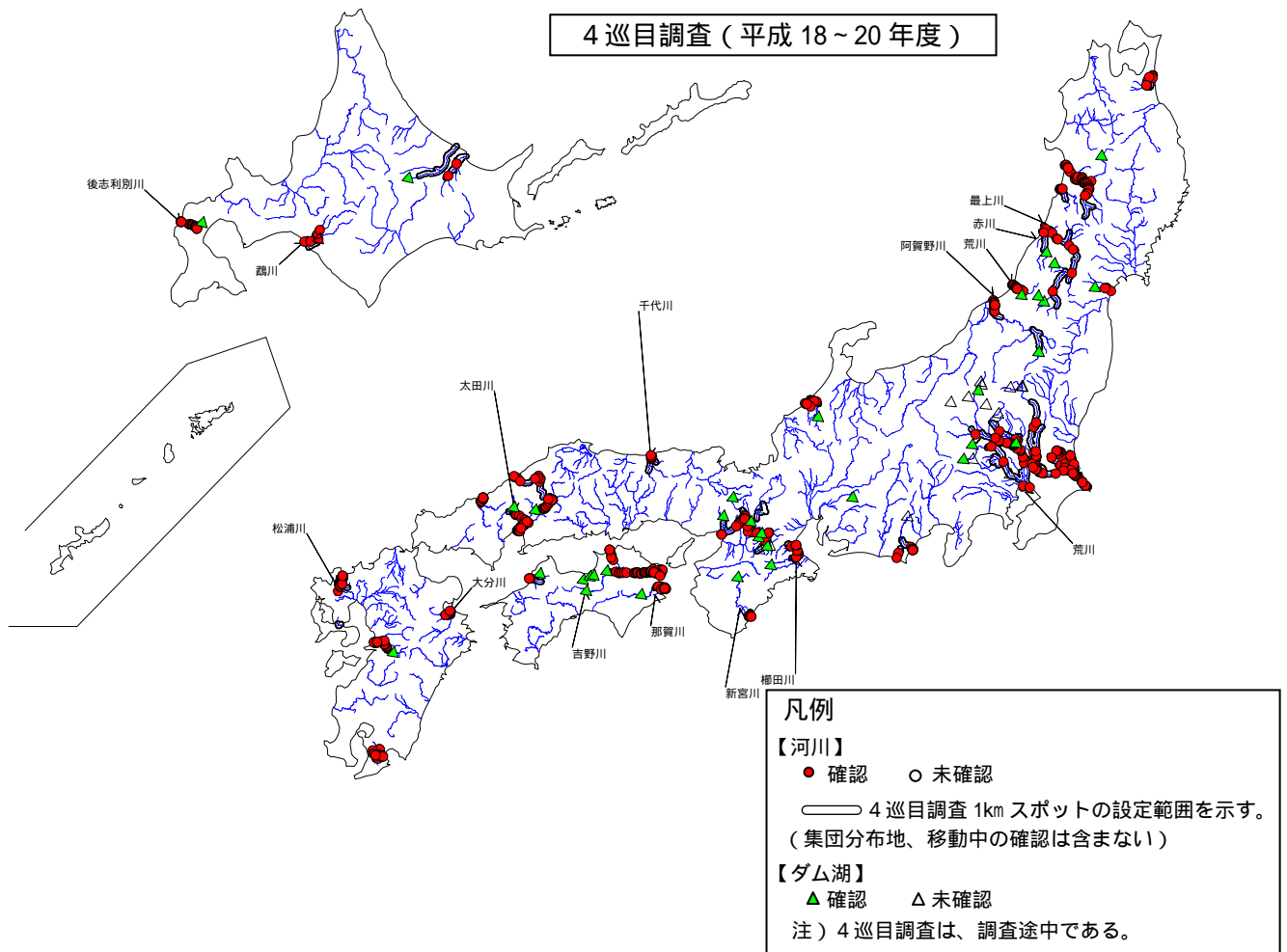
注4) 1～3 巡目調査は間隔を空けた複数の調査地区で観察するラインセンサス法で、4 巡目調査は河口から上流までの全調査区間を 1km ピッチで連続的に観察するスポットセンサス法で実施した。



ミサゴの確認地区 (1 巡目調査、 2 巡目調査)



ミサゴの確認地区（3 巡目調査）



ミサゴの確認スポット（4 巡目調査）